

事務事業の概要							
1	事務事業名	かしはら万葉ホール貸館事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	文化振興課	課長名	岸本 勝寛	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち			
		施策	2	文化芸術活動の振興			
		今後の取組	2	文化活動の推進			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	文化ホール管理運営費					
7	事業開始年度	平成 8 年度	事業終了年度	平成	年度		
事務事業の実施							
8	対象	かしはら万葉ホール利用者					
9	事業の目的	文化芸術活動を実践しようとする市民や団体等に活動機会を提供できるように、文化芸術事業継承のための拠点として、市民の文化力の向上を支援することを目的とする。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		経年劣化により、建物の損傷や設備機器の不具合等が多数発生し、貸館の中止等の危険があるが、維持管理を適切に行い、文化活動の場所を提供し続ける。					
11	事業の内容(手法)	運営・維持管理を業務委託し、貸館事業を実施する。 老朽化した設備に関しては更新計画を作成し、随時修繕・更新を行っていく。					
		平成30年度からの拡充・変更内容(予算措置を必要とするものに限る)	建物の損傷や設備機器の不具合等が多数発生している状況から、外壁は専門のコンサルティング業者に調査依頼し、年次の更新計画を作成する。また、空調機は計画的に更新していく。				
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
		成果指標	会議室等の利用率(利用日数/利用可能日数)	75	75	75	75
	活動指標	①	レセプションホールの利用率	65	65	65	65
		②	ロマンピアホール利用率	40	40	40	40
	コストの推移(単位:千円)	(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)		
13	歳出(直接事業費)(a)	受益者負担額	251,690	295,588	374,679	376,197	
		国県補助金等その他					
	歳入(b)	(a) - (b) = 一般財源	209,575	253,473	332,564	334,082	
14	増額理由	拡充事業	事業内容の拡充によるもの				
備 考							

事業の具体的内容の検討							
15	妥当性の検討	なぜ市が関与しているのか	番号	1 義務	法律等（条例を除く）で義務付けられた事業		
			2		法令名（ ）		
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業			
		説明	公立文化施設は地域の文化及び街づくりの核となる施設であり公共性が高く、また収益性の面からも市が関与すべき事業である。				
16	緊急性の検討	なぜ今なのか	説明	<p>すでに耐用年数を過ぎた空調機器等は、修理部品の生産終了により修理対応ができない状態である。そのため突然故障した場合、貸館事業を中止せざるを得ない状況になる可能性がある。その際、貸館や事業のキャンセルにかかる賠償金も計り知れない金額になる恐れがあり、早急な更新が必要である。</p> <p>また、外壁のタイルはモルタルの劣化による浮きが生じており、剥がれ落ちると人命にかかわることも想像され、早急な更新が必要である。</p>			
17	有効性の検討	期待される効果・メリット	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
			説明	外壁等、老朽化した箇所を更新することにより、利用者に安全・安心な文化活動の場を提供することができる。また、空調機を更新することで、冷媒ガス（R22）の問題も解決される。			
		上位施策（総合計画・基本計画）への貢献度	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
			説明	文化芸術事業継承のための拠点として整備し、問題なく使用できる状態にすることで文化芸術活動の振興に寄与できる。			
18	効率性の検討	コストの検証（費用対効果の検証を含む）	3	1 事業費も人件費も低減		2 人件費は増加するが事業費は低減	
				3 事業費は増加するが人件費は低減		4 事業費も人件費も増加	
			補助金等の有無	無	補助金名（ ）		
		説明	機器の管理、修繕対応、故障時の各種損失を考慮すると、費用対効果は高いといえる。特に外壁タイルに関しては、剥がれ落ちると館運営にも関わる。また、空調機器等の老朽化した設備を更新することで、エネルギー使用量の削減をすることができる。				

事務事業の概要							
1	事務事業名	文化芸術育成事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	文化振興課	課長名	岸本 勝寛	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち			
		施策	2	文化芸術活動の振興			
		今後の取組	3	文化芸術活動の育成支援			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	文化ホール管理運営費					
7	事業開始年度	平成 24	年度	事業終了年度	平成	年度	
事務事業の実施							
8	対象	文化・芸術団体、市民					
9	事業の目的	文化・芸術団体は健全にしてかつ適切な事業活動を行うのが望ましく、文化・芸術は人々が真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活を実現していくうえで不可欠であり、十分な活動を行えるように助成を行う。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		文化団体の活動が心豊かな生活を実現するとともに、活力のある社会を構築している。また市の文化芸術振興に重要であり、これらの団体が健全にしてかつ適切な事業活動を行えるよう支援する。					
11	事業の内容(手法)	良質な文化活動を行っている文化・芸術活動団体に対して、適切な運営を継続的に行えるように、補助金を支出する。					
		平成30年度からの拡充・変更内容(予算措置を必要とするものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標	事業計画に対する執行率(実績額/予算額)	100	100	100	100	
	活動指標	①					
		②					
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		1,880	2,060	1,880	1,880	
	歳入(b)	受益者負担額					
		国県補助金等その他					
(a) - (b) = 一般財源		1,880	2,060	1,880	1,880		
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	文化ホール自主事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	文化振興課	課長名	岸本 勝寛	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち			
		施策	2	文化芸術活動の振興			
		今後の取組					
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	文化ホール管理運営費					
7	事業開始年度	平成 8 年度	事業終了年度	平成 年度			
事務事業の実施							
8	対象	市民					
9	事業の目的	芸術的、文化的にすぐれた公演事業を伝統芸能、クラシック、大衆芸能など多ジャンルで企画実施し、市民が文化芸術に関心をもち、趣味を広げる契機にしよう。また市民が参加できる文化事業を企画実施し、文化活動の機会を増やし文化力を高めることを目的とする。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	1	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		かしはら万葉ホールが地域の文化活動の拠点として認知されるよう集客が見込める公演や文化的価値が高い公演をバランスよく開催する。その際には、文化庁や財団の助成をできるだけ利用し支出を抑える。また、鑑賞のための公演を開催するだけでなく、市民が参加できる文化芸術事業の政策実施に取り組み、事業が一過性の催事にならないよう計画性を持って進める。					
11	事業の内容(手法)	かしはら万葉ホールの自主事業としてクラシック、大衆芸能などの公演を年数回開催する。その際は、費用の抑制を図るため各種助成制度の利用も積極的に取り入れていく。また、市民が主体となる事業（ロビーコンサート、スタインウェイピアノ試弾会など）を企画開催する。					
		平成30年度からの 拡充・変更内容 (予算措置を必要とする ものに限る)	平成29年度は国民文化祭開催に伴い、公演事業実施委託料を減額している。平成30年度以降は減額していた金額を戻すため、それに伴う一般財源の増加が見込まれる。				
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
		成果指標	公演入場者数(販売席数)	4500	4500	4500	4500
	活動指標	①	通年公演販売率(販売席数/発売席数)	55	55	55	55
		②					
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		18,826	23,905	23,890	23,918	
	歳入(b)	受益者負担額	14,955	14,955	14,955	14,955	
		国県補助金等その他					
	(a) - (b) = 一般財源		3,871	8,950	8,935	8,963	
14	増額理由	継続事業					
備 考							